

東南アジアにおける フードバリューチェーン(FVC) 構築支援の取組

2017年11月30日

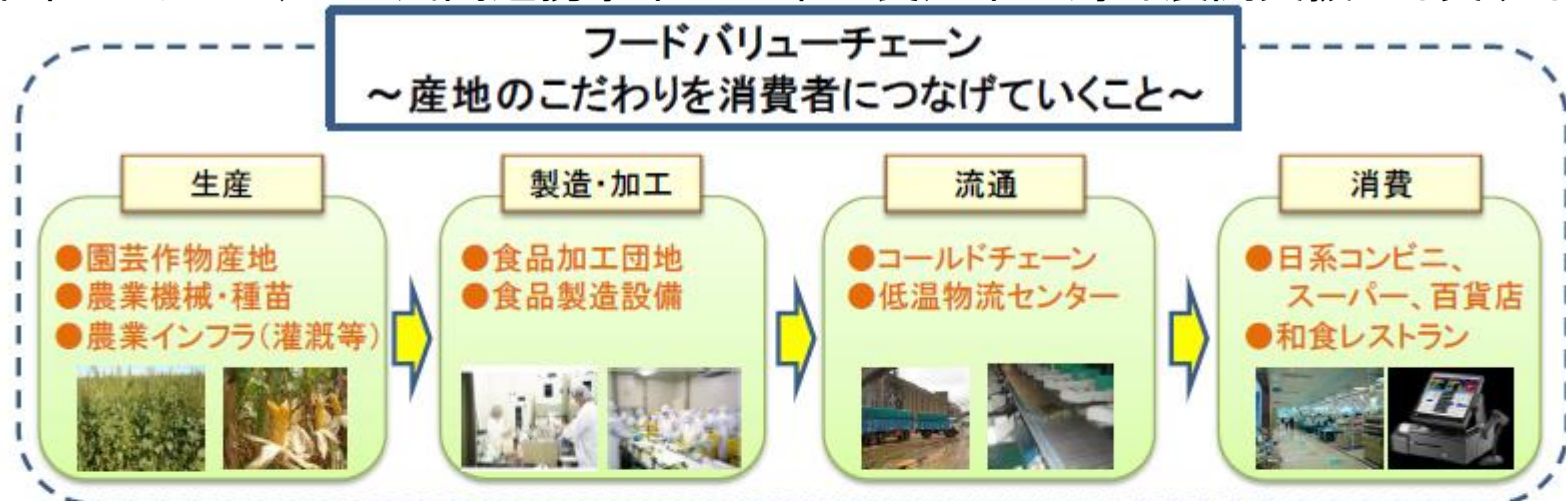
JICA農村開発部第一チーム

平 知子

1. JICAが取り組むFVC構築支援
2. 東南アジアにおける具体事例
 - － インドネシア
 - － ミャンマー
 - － フィリピン
3. 今後の展望

1. JICAが取り組むFVC構築支援

JICAが実施する経済協力は政府が掲げるグローバル・フードバリューチェーン戦略にも位置づけられ、かつ民間連携事業は日本の食産業の海外展開支援にも資する。



民間連携事業

技術協力、無償資金協力、円借款

日本の食産業の海外展開

<日本の食産業の「強み」>

- ①ユネスコ無形文化遺産の日本食を基盤とした産業展開
- ②高品質コールドチェーン
- ③高度な農業生産・食品製造・流通システム（ICT、省エネ・環境技術、植物工場等）
- ④先進性・利便性の高い日本型食品流通システム（POS、コンビニ、モール等）

経済協力の戦略的活用

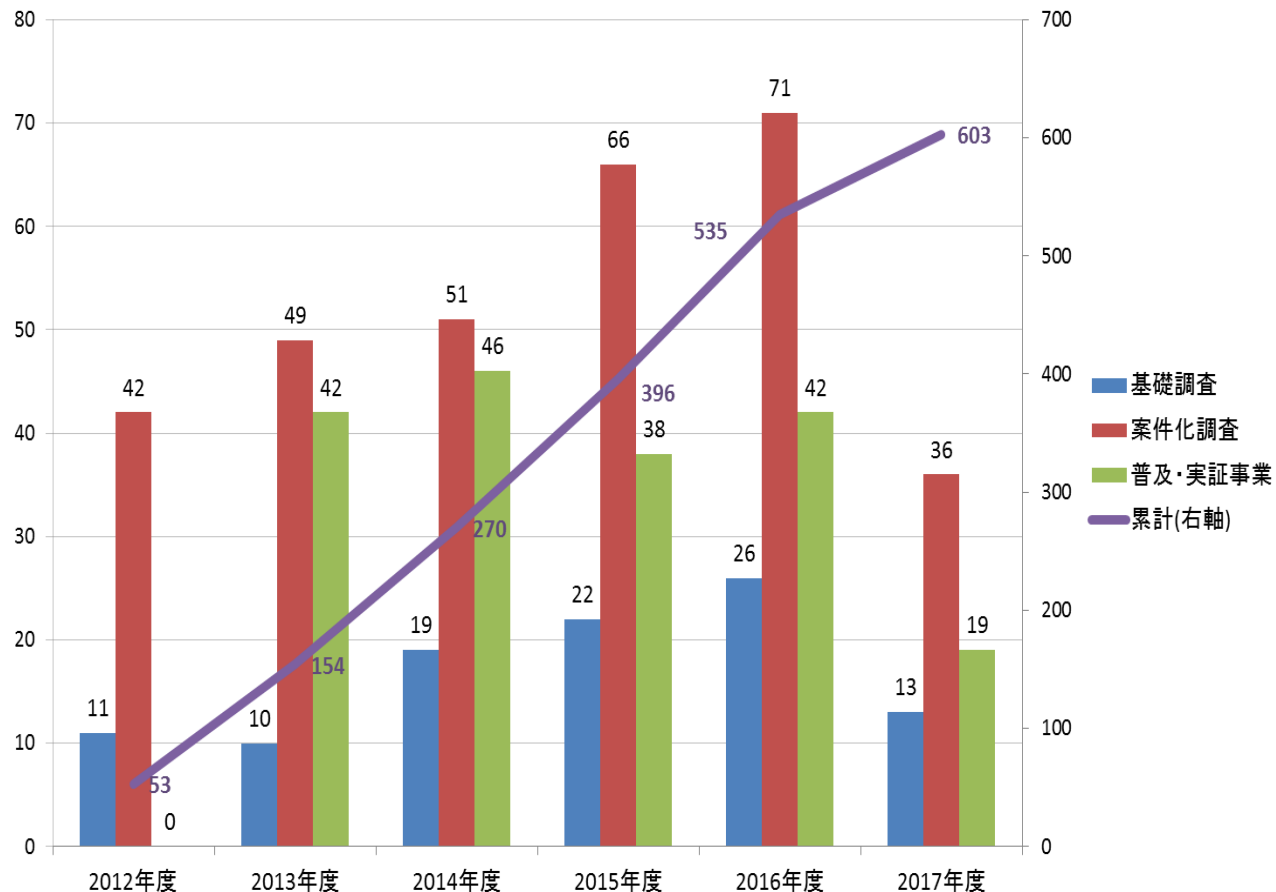
- 園芸作物産地の育成
- 高性能農業機械の導入
- 農業インフラの整備（灌漑施設等）
- 人材育成
- 農業生産・食品の規格・基準等制度の構築

日本食の輸出促進

- 現地日系企業向けに日本食材を輸出（食品工場、和食レストラン、スーパー、コンビニ等）
- 輸出市場でのコールドチェーン等のインフラ整備
- 現地日系企業を通じたマーケットイン型の輸出体制の構築

JICAの中小企業支援事業実績①

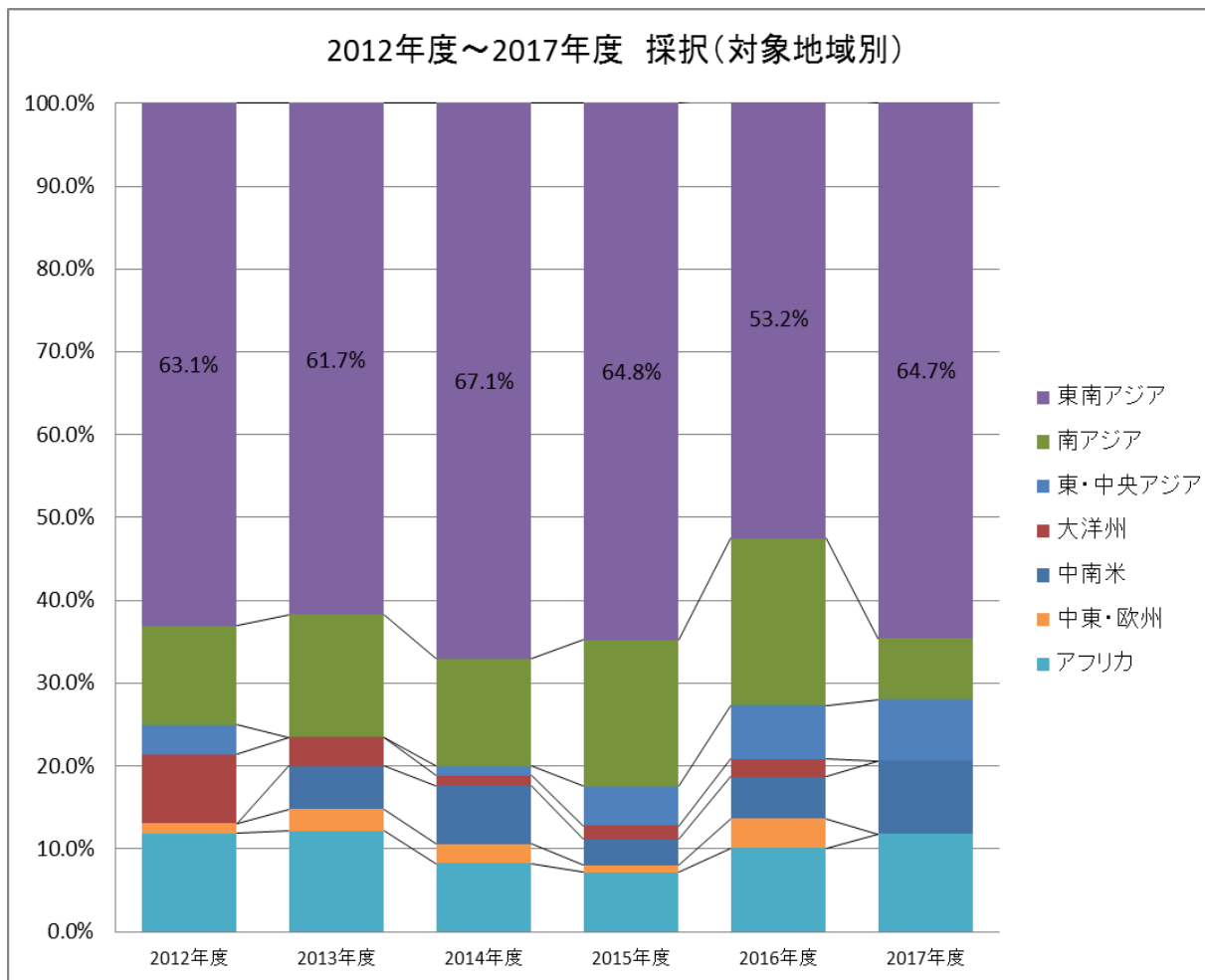
- ・実施期間：2012年度より開始し、2017年度で6年目
- ・述べ採択数：603件（2017年4月採択分まで）



採択件数中の農業案件(%)： **7.6%** **12.7%** **22.4%** **30.2%** **28.8%** **21.8%**

JICAの中小企業支援事業実績②

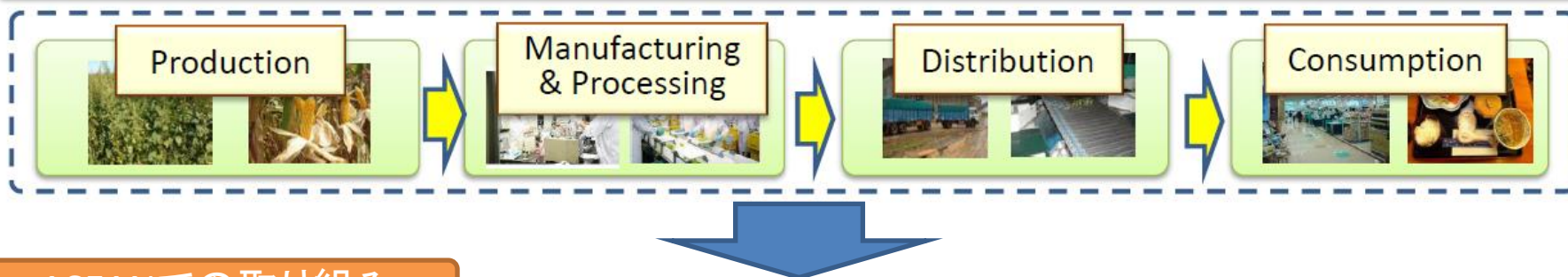
- ・国別採択状況：毎年約6割は東南アジア地域での案件を採択



JICAが取り組むFVC構築支援

背景

- ・途上国でインフラ整備、投資環境整備が進む中、伝統的な農業から市場志向型の農業の転換が図られてきており、途上国の市場も従来の「食料の安定確保」のみならず、「品質の向上、安全性の確保」を求める国が増加している。
- ・海外市場を志向する農業開発が進む中、各市場に見合った規格・基準を満たす農産品の生産・加工・流通が必要となっている。
- ・農業セクター依存の高い途上国が多い中、海外を含む市場に対し安定供給を実現するためにFVCの構築が必要であり、またFVCの中のボトルネックを明らかにし、各段階で然るべき付加価値がつけられ、生産者等の所得が向上するための仕組みを作る必要がある。



ASEANでの取り組み

- ・ASEAN各国では、各国事情に合わせたFVC構築に関連するプロジェクトを実施中。
- ・ASEAN域内貿易の拡大に向けて、域内動植物検疫等の輸出入関連制度の標準化や、ASEAN GAP制定等の安全・安心な農産物生産に係る仕組みの導入等、域内共通の課題解決に向けた目標を掲げている。